



『のはらうた』で有名な工藤直子さんが、ある中学校に呼ばれて、生徒の前でお話をしていた時のことでした。「もし中学校の先生だったら、どんな先生になりたいですか?」という生徒からの質問に対し、こう答えました。

「ええとね……『自分もむかしは中学生だった』ということを忘れないでいる先生になりたいよ」
(工藤直子『こころはナニで出来ている?』岩波現代文庫、2008)

引き継いで 引き継いで

校内なわとび大会(気持ちのよい応援大会)

会でした(私が勝手になわとび大会の「開会の言葉」で名付けました)。そして、その名に違わず、気持ちのよい応援が飛び交う大会になりました。

大会中、一番聞こえた声は「がんばれーっ」。長なわとびを終えた後、子どもたちから真っ先に聞こえてきたのは「最高記録が出た!」。

他のチームに勝ちたいのは山々でしょうが、それよりも自分たちが伸びたことが一番の喜びだったのでしょう。そこには、最初は縄にうまく入れなかった1年生が短期間で上達した喜びも含まれているはずです。

4日に実施した校内なわとび大会のまたの名は、「気持ちのよい応援大



【緊張のスタート】

しょうがっこうは たのしいよ かい

たものです。当時はただの社交辞令だと思っていましたが、大人になった今、その言葉が決して形式的なものではないことが分かるようになりました。毎日見ていると気付きにくいのですが、子どもの1年の成長は大きなものです。

6日の午前中、4月に入学してくる子どもたちの体験入学を行いました。1年前は迎えられる側だった1年生が、もう迎える側になりました。教室では園児に席を譲る側になりました。

園児と交流する中で、ある1年生の男の子は「オレもこんな時があったわ。」としみじみとつぶやきました。その男の子は、最後に幼稚園の子と「さようなら」をした後、「行ってしもた……。」と寂しそうでした。

午後の入学説明会では、「新入生は何もできない、何も知らない、『ぴかぴかの1年生』で入学してくるのではなく、幼稚園・保育園のリーダーとして培ってきた力を持って入学してくる」ということを保護者の皆様にお伝えしました。

寂しく「さようなら」をした園児たちも、あと二か月後には、頼もしい新1年生として入学してきます。豊中小学校初めての入学生です。

幼いころ、久しぶりに会った親戚から「大きくなったなあ。」と決まり文句のように言われ



【園児との出会い】

「私も昔は1年生だった」「ぼくも1年前は幼稚園だった」……。そういうことを忘れないでいることが、きっと下級生にやさしくできる種になっているのでしょうか。